



夢の実現へ、一緒に考える指導



部員たちにアドバイスをする安田さん(左)
—宮津市・宮津湾

京都市南区出身。ヨットが趣味の父の影響で、小学3年時に琵琶湖ジュニアヨットクラブ(大津市)に入った。最初は湖上の寒さで厳

風と波を味方に宮津市の宮津湾を走り抜ける。「普段は指導ばかりなので、たまにはこういうのも楽しい」と日焼けした顔の表情が緩む。ヨットの元日本代表で、現在は創部60年以上の古豪・宮津高ヨット部(同市)の顧問を務めて7年目。自身の役割は「目標に向けて生徒たちが力を出し切れるようにマネジメントすること」と位

置付け、時に優しく時に厳しく部員17人への指導に力を注いでいる。ヨット元日本代表の宮津高教諭 安田 真之助さん(32)

いい指導で好きになれば「クラブの友達と遊ぶ」との方が楽しかった」と笑う。「ヨットが嫌」という反発心から中学では柔道を掛け持ちで始めた。京都府の大会で3位にもなった。高校はどちらの道に進むか迷つたが、「小学生から続

けているのに結果が出てないことが悔しかった」と決心。塔南高(京

都市南区)に通いながら大津市のセーリングクラブに所属して努力

を続けた結果、全日本選手権や国

体で優勝するなど着実に実力を伸ばした。

連覇し、4年生の時にインカレの団体優勝にも貢献した。卒業後は職員として大学に残り2012年のロンドン五輪を目指すも、最終選考で涙をのんだ。

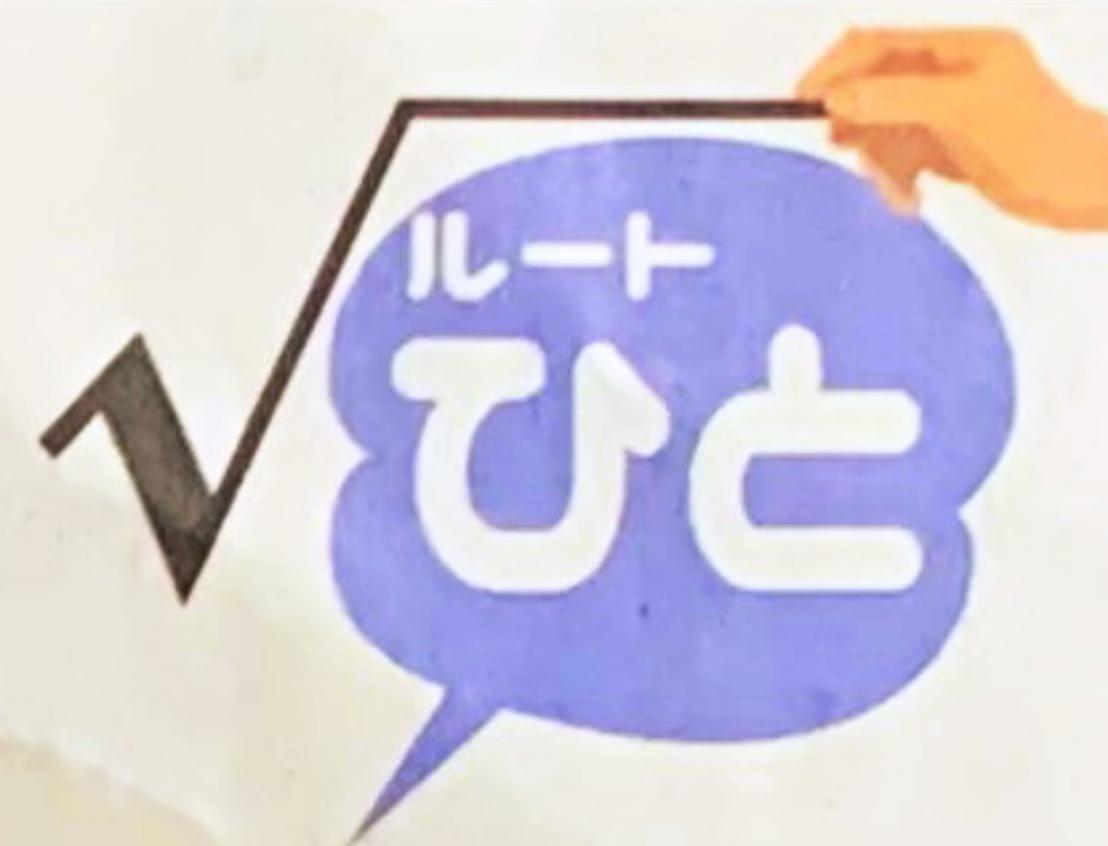
翌年、京都府教育委員会の特別選考で教員になり、宮津高へ。ロンドンを最後に第一線は退くつもりだったが、指導したりヨットに乗る生徒たちの姿を見たりする中で五輪への気持ちが再燃。しかし世界の壁は高く、またしても出場はかなわなかつた。それでも「誰

にも経験できないような目標に向けて全力を出せる時間を過ごせた」と振り返る。今は技術よりも何かを思い切ってやるという普通にできない経験を生徒に伝えたい」と意気込む。また「生徒に答えを示すのではなく、何を教えないかを見極める。答えを実現するための方法と一緒に考え、生徒の考えを深めるのがコーチング」と語る。

京丹波町蒲生



「今を全力で」生徒に示す



ヨット元日本代表の宮津高教諭
やすだ しんの すけ

地域プラス

南座新聞開幕記念
京都マツリ
Supporter SUNTORY
昼マツリ HIRUMATSURI
5/12~5/25
11:00~17:30
夜マツリ YORUMATSURI
5/12~5/24
(月~木) 18:30~22:00
(金土日) 18:30~23:00
入場料などの
詳細は
公式Webへ
www.mirai-matsuri.com
京都南座 ☎075-561-1155

に取り組んでいます。読者の身近な疑問や
取材テーマを募集!